

10. 吉野塚大明地遺跡

よしのさかいだいみょうちいせき

所在地：吉田郡永平寺町松岡吉野塚

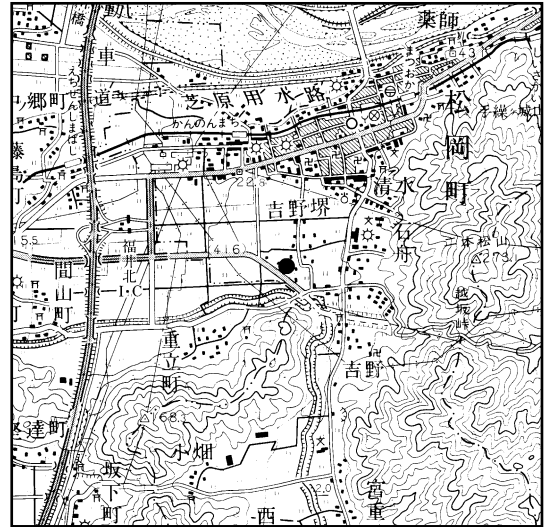
調査原因：中部縦貫自動車道建設

調査期間：平成 23 年 7 月 1 日～8 月 31 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：410 m²

時代：弥生時代・奈良時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 吉野塚大明地遺跡は吉野谷から福井市北東部へ流れる荒川右岸に位置し、二本松山の山麓から西方へ延びる台地上に立地します。今回の調査範囲は平成 16・17・20 年度の調査地点に挟まれる位置にある 2 箇所です。

遺構 北側の 6-1 区では町道両側に設けられた側溝や水道管敷設時の掘削により、削平されていました。遺物包含層は道路中央部分の一部で部分的に確認できたのみです。遺構は黄褐色シルトの基盤層上面で検出しました。確認できた遺構はピット 4 基のみで、うち 1 基は柱痕が確認でき柱穴であると考えられます。

南側の 6-2 区では民家前に位置する一角と町道部分の 2 回に分けて調査を実施しました。民家前部分では一部で水道管敷設や現代の廃棄土坑による攪乱があるものの、表土直下でわずかであるが遺物包含層が確認できました。遺構は、ピット 27 基が検出されました。

これらのピットからは土器の細片が微量出土しました。大半は奈良時代頃のものと考えられるが、1 基のみ弥生時代後期と考えられるものがあります。東側に隣接する平成 20 年度調査区と後述する南側の町道部分のいずれもが削平を受けて遺構があまり残っていないため、これらの遺構の中に掘立柱建物を構成する柱穴が含まれるかどうかは不明です。

町道部分は遺構が全く残っていないと考えられる南側排水路部分を除く、町道舗装および北側側溝部分の掘削を行いました。道路側溝・水道管や近代以降の水路・建物基礎により顕著に削平されており、遺物包含層は全く確認できませんでした。遺構は、溝 1 条とピット 14 基を確認しました。遺構に伴う遺物は微量の細片であるため、時期の特定は困難です。

遺物 出土した遺物はコンテナ箱 1 箱分であり、奈良時代を中心とする須恵器・土師器のほか、弥生土器と中世の土器・陶磁器がそれぞれ微量です。

まとめ 今回は調査前から、攪乱や削平が予想されていた。そのなかで南側の 6-2 区で遺構が検出されたことは有意義です。この調査で、中部縦貫自動車道建設に伴う調査は終了しますが、これまでの調査から吉野塚大明地遺跡は、公的機関が存在していたことが窺えます。

(青木隆佳)



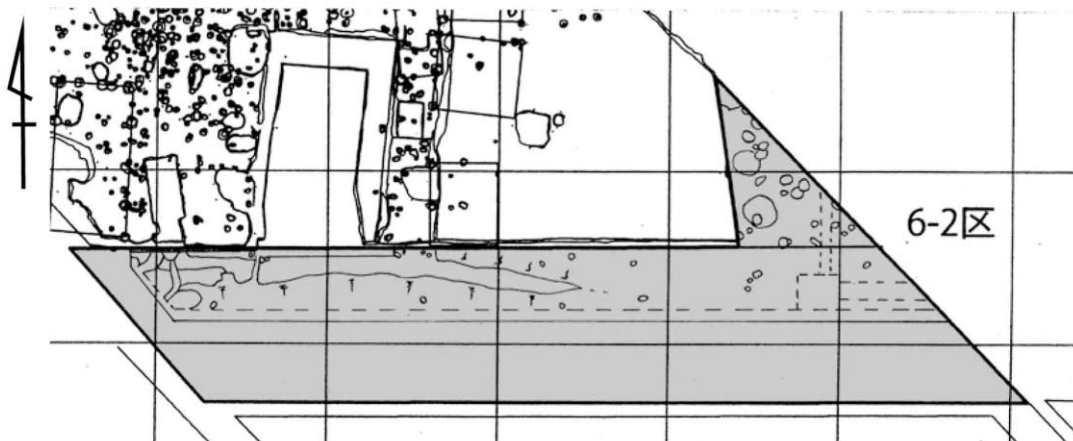
6-1区 全景（北東から）

6-2区 民家前部分 全景（北西から）

6-2区 町道部分 全景（西から）



6-1区略図



6-2区略図